

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501326		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモ松陵 1階うぐいす		
所在地	仙台市泉区松陵1丁目28-1		
自己評価作成日	平成27年8月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然豊かな環境に恵まれ、うぐいすの鳴き声とたらの芽の天ぷらで春を感じ、つばめが巣を作りヒナを育て、セミの鳴き声で暑さを実感しながら手作りのしそジュースで喉を潤し、芋煮会や紅葉・干し柿作りなどを楽しみ、静かに雪化粧を眺めたりと四季を肌で感じることができます。地域の方々の協力のもと一緒に畑へ苗を植え、育てたトマト・キュウリ・ゴーヤなどをおかずに加えて収穫の喜びを味わっていただいております。医療面においては、往診クリニックと連携を図り、24時間対応で診察が受けられる体制を整えています。また職員は、ご家族様と地域とのつながりを大切にし、家庭的な雰囲気の中笑顔で過ごしていただけるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は鶴が丘団地に隣接し、緑に囲まれた静かな住宅地にあり、開設して10年になる。理念は毎年、ユニットごとに、職員全員で見直し、話し合い決めている。開設時からの利用者もおり年齢や介護度があがる中で、理念に掲げる「心のこもったケア」や「家族と地域のつながり」を大切に利用者さんが安心して過ごせるよう支援している。町内会と連携しており、事業所の夏祭りには地域の方が大勢参加している。近隣の幼稚園児との交流や資格を持つ職員がキャラバンメイトとして、中学生に認知症サポーター養成講座を開催している。事業所には常勤の看護師がおり、往診医と訪問看護師は24時間対応可能である。事業所として研修や資格取得、スタッフ同士の信頼関係の構築、やりがいを感じられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス松陵）「ユニット名 うぐいす」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別に、毎年ユニット毎に理念を作成、掲示して毎日ミーティングで唱和、スタッフ間で共有し実践に活かしている。(ケアで迷ったときは理念を振り返る)	法人の理念とユニットごとの理念がある。毎年3月に職員全員で理念や法令の勉強会を開き、アンケートをとって見直しについて検討している。ケアに迷うような時には理念を振り返り、利用者に寄り添うよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として会費を納めている。地区社協主催のサロンや地域行事へ参加。ホーム主催の行事に参加して頂いている。幼稚園児との交流や中学生の職場体験を受け入れ、学びの場として貢献している。	町内会に加入、地域行事には利用者も参加している。園児との交流や中学生の職場体験を受け入れ、歌や踊りのボランティアも来訪している。事業所の夏祭りには町内の方がたくさん参加している。隣接する町内には、折に触れ関わりを深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月地区社協開催のサロンへ参加。地域の方々と交流を持ちながら認知症についての知識や理解を得られるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、様々な意見交換をおこない事業所の運営について助言をいただいている。	年間計画を作成し奇数月に開催し、町内会長、民生委員、社協、地域包括職員、幼稚園長、利用者とその家族が出席している。運営推進会議に合わせ避難訓練を実施し、意見を聞き、誤薬をなくすための方法などの助言を受け、ヒヤリハットについて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課には運営推進会議の案内保護課へは毎月広報誌を送付。疑問点が生じた時には市町村の担当者から助言をいただいている。認知症介護指導者を務めている。	区の保健福祉課に運営推進会議の案内状と開催報告書を届けている。介護保険や運営などについて担当部局に相談している。生活保護課の担当者が来所した折にも相談している。地域包括からは研修などの情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に拘束のないケアを実践している。(ベッドが危険性のある方に対しては、ご家族様やご本人様の希望も取り入れ布団対応をおこなっている。)	日中の施錠はしていない。外出傾向を把握しており、玄関のセンサーはつけていない。離床センサーも使用していない。夜間の施錠は夜勤の職員が出勤する20:30頃にしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に防止に努めている。独自の取り組みとしてお互いの長所を認め合い質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した資料を基に勉強会をおこなっている。ホーム利用者様に関しては身元保証人がご家族様であり、良好な関係が保てている。希望により支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は、ホーム長管理者、看護師、関係職員同席のもと、懇切丁寧な説明を心がけ理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置。意見や要望を外部へ表せる機会を設けるため第三者委員を選出している。	家族には運営推進会議の参加の案内をしている。普段から面会に来る家族も多く、介護プランの説明などを行い、運営について意見を聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標設定シートを基に年2回の面談で各自の意見や目標を聞き、反映できる環境を整えている。	職員全員が一年間の目標や意見を社長に出している。所長との年2回の面談、会議や毎日のミーティングの中でも意見、要望を出す場がある。外部研修や資格取得は業務として支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施。向上心をもって働けるよう配慮している。またキャリアパス制度も導入し資格取得に貢献している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や定期職場内研修スキルアップ研修への参加及び定例会議でのマニュアル勉強会。また研修後の伝達報告会にて情報の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して研修や交流に参加し情報の共有に努めている。系列のグループホームと行事を通して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が中心となり本人や家族から今後の生活について要望等を伺いながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し寄り添い、支えていくことで信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから入居までの時間がある場合は、待機期間中に必要なサービス(訪問介護等の在宅サービス)についてパンフレット等を用いて情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事・掃除・洗濯等共同生活を送ることでお互いに助け合い、個々の考えや価値観に触れ理解し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には近況を報告し、家族の話に耳を傾け、一緒に本人を支える環境作りに努めている。また月1回手紙と広報誌でホームでの生活の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人と手紙や電話で交流を続けられるよう努めている。みんなで作った日本地図に出身地や地域の名産等を分かりやすく掲示することで思い出話が出来よう努めている。	家族や友人に手紙を出したいという利用者には代筆などの支援をしている。リビングには皆で作った日本地図に利用者だけでなく職員、往診医など関係者の出身地、名産品を記入し、利用者の知識や思い出を引き出すコミュニケーションツールになっている。職員と一緒に買い物に出かけたり、家族と外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でカラオケを熱唱し、テレビや散歩を楽しむことで交流している。職員が利用者同士の関係を把握し、孤立しないように関わり、支え合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供等をおこない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中から思いや希望を把握し言葉で表現することが難しい方については表情や反応を見ながら、家族の意向も伺い思いに添えるよう検討している。	入居時や日々、本人や家族に聞いている。把握が困難な方には根気よく話かけている。何度も繰り返し把握できた情報は職員で共有している。掃除を手伝ったり紙袋を作る等、利用者が思い思いに過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活状況を伺い情報として共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別記録(今日の私)に残し毎月会議(カンファレンス)で振り返りをおこなうと共に状況に応じて話し合う機会を設け、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って毎月モニタリングしカンファレンスで話し合い、日々情報を共有しケアに活かしている。また、本人や家族の意向、主治医との連携を図りより良い介護計画を作成している。	ケアプランの見直しは3ヶ月ごとに行っている。毎月モニタリングし、カンファレンスにおいてプランに活かしている。「私の姿と気持ちシート」には職員が書いた利用者の似顔絵とその周りに思いや願いなどを書きこみ、ケアプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌(今日の私)に個人の様子を記録する他に、スタッフ間で連絡ノートを活用し情報の共有に努め介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態・状況に合わせ随時モニタリングをおこない、介護計画を作成、その方の希望に沿った外出計画も立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回地域のサロンへの外出や近隣スーパーへの買い物を通し、社会との交流を図りながら楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で本人、家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援している。24時間対応可能な往診クリニックと連携を図っているが、専門的な受診が必要な場合は、家族と相談し対応している。	ほとんどの利用者は往診医がかかりつけ医で、専門医とも連携している。往診医は24時間対応で連携体制もできている。通院の際は家族が付き添っているが、必要に応じ職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況との違いに気づく観察力を身につけ、月2回常勤看護師による看護指導を実施し、情報を共有することでスムーズな連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護連絡表を用いてホームでの様子や経過を情報提供している。入院中の状況も家族や面会を通して把握。退院にあたり、今後の生活について情報をいただき、ケアの参考にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期の方針について説明している。必要時家族、主治医、職員を交えてサービス担当者会議を実施。ホームでできることを説明。本人、家族の意向を伺い、主治医と連携し、終末期の介護や看取りもおこなっている。	入居時に看取りの方針を説明し同意を得ている。終末期には家族、主治医、職員で話し合い同意書を交わし24時間対応の訪問看護師とも連携している。ほとんどの家族と利用者がここで終末期を迎えることを望んでおり、職員も看取りの経験を積んでいる。事業所には常勤看護師がおり職員に安心感がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルを参考にした勉強会を実施。また看護師の指導の下、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施している。毎月11日を防災の日とし、備品点検をしている。また地理的な制約もあるが隣接の鶴が丘地区住民と協力体制を築いている。	年2回、夜間と昼間を想定し避難訓練をしている。町内はもとより隣接する町内会の方にも防災訓練の参加を依頼し、関わりを強める努力をしている。消火設備の点検もされ備蓄は4日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。プライバシー保護については年間研修計画の中に取り入れ勉強の機会を設けている。呼び方については本人の意向に添って苗字や名前と呼んでいる。	呼び名は入居時に本人や家族から聞いている。トイレ介助はさりげなく行っている。話しかけ方にもそれぞれを尊重する配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現することが難しい方については表情や様子から思いをくみ取り自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスを活用している。日々衛生保持に努めるとともに家族の協力のもと季節に応じた身だしなみやおしゃれを楽しむことができるような支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に準備し、一人ひとりの好みや旬の物を取り入れた食事を楽しんでいる。またホットプレートで焼きそばやお好み焼きなどを作り、後片付けも一緒におこなっている。	法人の管理栄養士が献立をたて、ユニットごとにいる調理師が献立をアレンジし3食手作りしている。食材は複数の業者から購入している。誕生会などの行事食や、好きなものを選ぶ日も設けている。職員は利用者の見守りや介助をしている。介護食にも対応し、食後のバイタルチェックを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、栄養バランスの摂れた食事を提供している。また、水分量を把握し好みに応じた飲み物を提供。さらに、主治医と連携を図り、必要に応じた助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保っている。また随時往診歯科による診療で助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握。タイミングをみてトイレ誘導をおこない生活のリズムを整えている。その方の動作や表情、しぐさから状況を把握し支援をおこなっている。	排泄パターンを把握している。自立を目指しているが、介護度の重い方が多くリハビリパンプンの方が多。便秘予防のために、朝に水分や牛乳をとったりしているが薬を使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や水分の摂取状況等を把握し快適な排便に繋がるよう努めている。管理栄養士の指導の下、食物繊維を多く含むメニューを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望にて入浴が出来るよう対応している。入浴を拒む方は声がけを工夫しながらタイミングを見て声がけしている。	週2～3回入浴し、時間は利用者の希望に添っている。湯は2人ごとに交換している。入浴を拒む方には声掛けや時間などを工夫している。ゆず湯、ミカン湯、しょうぶ湯、バラ湯など季節ごとに楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は特に定めていない。夜間帯は間接照明にて安眠できるように配慮している。また不眠傾向の方に対しては日中の過ごし方を見直し、安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解できるよう処方箋をファイリングしている。また日付け名前を読み合わせし、再確認の上内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々個別アクティビティをおこない一人ひとりと接する時間を多く取るように努めている。毎月ホーム内外行事や外出支援を通して気分転換につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って出かけられるよう支援に努めている。また年間計画に行楽計画も組み入れている。毎日の生活の中でも散歩や買い物等で外出支援をおこなっている。	寒い季節を除いて歩ける方、車いすの方が散歩をしている。洗濯物を一緒に干すなど外に出る機会を作っている。法人のデイサービスの車で季節ごとドライブに出かけ、アイスクリームを食べるなど楽しんでいる。買い物をしたい利用者には職員と一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方については家族の同意をいただいた上でホームで預り毎月収支報告をしている。購読している新聞や外出時の買い物などは職員見守りのもと自分で支払うことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族へお便りを書いたり、電話にて親族や友人とやり取りが出来るよう支援している。家族から電話をいただく事もよくある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は皆がゆったりとくつろげるように工夫している。また整理整頓を心がけ季節を感じる事ができるような作品を手作りし、掲示している。和やかに生活が楽しめるよう工夫している。	ユニットごとに間取りが異なる。2階のリビングは東西に窓があり四季が感じられる。1、2階共に利用者がくつろぐスペースが広い。大きな掛け時計、手作りの日めくりカレンダー、利用者と一緒に作った工作物が飾ってある。表札やトイレなど大きく表示されており、わかりやすい。温・湿管理もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて入居者同士がくつろいだりコミュニケーションの場として過ごせるようソファ・テーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの鏡台や家族の写真を飾っている。また本人が守ってきた仏壇にも手をあわせることができるような環境作りに努めている。	机、エアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。家具や仏壇、家族の写真、テレビなど馴染みの物を持ち込みその人らしく、安心して過ごせるよう支援している。居室は毎朝職員が掃除するが、一緒にする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室などは大きな文字で分かりやすく表記している。また、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501326		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホーム コスモ松陵 2階ひばり		
所在地	仙台市泉区松陵1丁目28-1		
自己評価作成日	平成27年8月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは緑に囲まれた静かな環境で、四季折々の花が咲き、小鳥の声が年中聞こえ燕が巣を作り、地域の方々と一緒に畑に苗を植え、開設当初から育ててきた梅の木や柿の木も沢山実をつけ、梅ジュースや干し柿作りを楽しみ、自然の恵みと収穫の喜びを肌で感じて味わい自分のペースでゆったりと過ごせる環境を整えております。

医療面においては、往診クリニック協力の下、24時間対応で見ていただける体制を整えております。

また、地域の一員として共に暮らし笑顔あふれる生活を大切に「気づき」「気配り」を心がけ、家庭的な雰囲気の 中で穏やかに過ごせるよう対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は鶴が丘団地に隣接し、緑に囲まれた静かな住宅地にあり、開設して10年になる。理念は毎年、ユニットごとに、職員全員で見直し、話し合い決めている。開設時からの利用者もおり年齢や介護度がある中で、理念に掲げる「心のこもったケア」や「家族と地域のつながり」を大切に利用者や安心して過ごせるよう支援している。町内会と連携しており、事業所の夏祭りには地域の方が大勢参加している。近隣の幼稚園児との交流や資格を持つ職員がキャラバンメイトとして、中学生に認知症サポーター養成講座を開催している。事業所には常勤の看護師がおり、往診医と訪問看護師は24時間対応可能である。事業所として研修や資格取得、スタッフ同士の信頼関係の構築、やりがいを感じられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス松陵 ）「 ユニット名 ひばり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別に、毎年ユニット毎に理念を作成、掲示して毎日ミーティングで唱和、スタッフ間で共有し実践に活かしている。(ケアで迷ったときは理念を振り返る)	法人の理念とユニットごとの理念がある。毎年3月に職員全員で理念や法令の勉強会を開き、アンケートをとって見直しについて検討している。ケアに迷うような時には理念を振り返り、利用者に寄り添うよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として会費を納めている。地区社協主催のサロンや地域行事へ参加。ホーム主催の行事に参加して頂いている。幼稚園児との交流や中学生の職場体験を受け入れ、学びの場とし貢献している。	町内会に加入、地域行事には利用者も参加している。園児との交流や中学生の職場体験を受け入れ、歌や踊りのボランティアも来訪している。事業所の夏祭りには町内の方がたくさん参加している。隣接する町内には、折に触れ関わりを深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月地区社協開催のサロンへ参加。地域の方々と交流を持ちながら認知症についての知識や理解を得られるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、様々な意見交換をおこない事業所の運営について助言をいただいている。	年間計画を作成し奇数月に開催し、町内会長、民生委員、社協、地域包括職員、幼稚園長、利用者とその家族が出席している。運営推進会議に合わせ避難訓練を実施し、意見を聞き、誤薬をなくすための方法などの助言を受け、ヒヤリハットについて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課には運営推進会議の案内保護課へは毎月広報誌を送付。疑問点が生じた時には市町村の担当者から助言をいただいている。認知症介護指導者を務めている。	区の保健福祉課に運営推進会議の案内状と開催報告書を届けている。介護保険や運営などについて担当部局に相談している。生活保護課の担当者が来所した折にも相談している。地域包括からは研修などの情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に拘束のないケアを実践している。(ベッドが危険性のある方に対してはご家族様やご本人様の希望も取り入れ布団対応をおこなっている。)	日中の施錠はしていない。外出傾向を把握しており、玄関のセンサーはつけていない。離床センサーも使用していない。夜間の施錠は夜勤の職員が出勤する20:30頃になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを基に勉強会をおこない、各研修に参加した資料を基に防止に努めている。独自の取り組みとしてお互いの長所を認め合い質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した資料を基に勉強会をおこなっている。ホーム利用者様に関しては身元保証人がご家族様であり、良好な関係が保てている。希望により支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する際は、ホーム長管理者、看護師、関係職員同席のもと、懇切丁寧な説明を心がけ理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置。意見や要望を外部へ表せる機会を設けるため第三者委員を選出している。	家族には運営推進会議の参加の案内をしている。普段から面会に来る家族も多く、介護プランの説明などを行い、運営について意見を聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標設定シートを基に年2回の面談で各自の意見や目標を聞き、反映できる環境を整えている。	職員全員が一年間の目標や意見を社長に出している。所長との年2回の面談、会議や毎日のミーティングの中でも意見、要望を出す場がある。外部研修や資格取得は業務として支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施。向上心をもって働けるよう配慮している。またキャリアパス制度も導入し資格取得に貢献している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や定期職場内研修スキルアップ研修への参加及び定例会議でのマニュアル勉強会。また研修後の伝達報告会にて情報の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して研修や交流に参加し情報の共有に努めている。系列のグループホームと行事を通して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が中心となり本人や家族から今後の生活について要望等を伺いながら信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し寄り添い、支えていくことで信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みから入居までの時間がある場合は、待機期間中に必要なサービス(訪問介護等の在宅サービス)についてパンフレット等を用いて情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で食事・掃除・洗濯等共同生活を送ることでお互いに助け合い、個々の考えや価値観に触れ理解し合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には近況を報告し、家族の話しに耳を傾け、一緒に本人を支える環境づくりに努めている。 また月1回手紙と広報誌でホームでの生活の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話で交流を続けられるよう対応している。みんなで作った日本地図に出身地や地域の名産等を分かりやすく掲示することで思い出話が出来よう努めている。	家族や友人に手紙を出したいという利用者には代筆などの支援をしている。リビングには皆で作った日本地図に利用者だけでなく職員、往診医など関係者の出身地、名産品を記入し、利用者の知識や思い出を引き出すコミュニケーションツールになっている。職員と一緒に買い物に出かけたり、家族と外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でカラオケを熱唱し、テレビや散歩を楽しむことで交流している。職員が利用者同士の関係を把握し、孤立しないように関わり、支え合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ情報の提供等をおこない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中から思いや希望を把握し言葉で表現することが難しい方については表情や反応を見ながら、家族の意向も伺い思いに添えるよう検討している。	入居時や日々、本人や家族に聞いている。把握が困難な方には根気よく話かけている。何度も繰り返し把握できた情報は職員で共有している。掃除を手伝ったり紙袋を作る等、利用者が思い思いに過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの生活状況を伺い情報として共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別記録(今日の私)に残し毎月会議(カンファレンス)で振り返りをおこなうと共に状況に応じて話し合う機会を設け、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って毎月モニタリングしカンファレンスで話し合い、日々情報を共有しケアに活かしている。また本人や家族の意向、主治医との連携を図りより良い介護計画を作成している。	ケアプランの見直しは3ヶ月ごとに行っている。毎月モニタリングし、カンファレンスにおいてプランに活かしている。「私の姿と気持ちシート」には職員が書いた利用者の似顔絵とその周りに思いや願いなどを書きこみ、ケアプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌(今日の私)に個人の様子を記録する他に、スタッフ間で連絡ノートを活用し情報の共有に努め介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態・状況に合わせ随時モニタリングをおこない、介護計画を作成、その方の希望に沿った外出計画も立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回地域のサロンへの外出や近隣スーパーへの買い物を通し、社会との交流を図りながら楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の時点で本人、家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援している。24時間対応可能な往診クリニックと連携を図っているが、専門的な受診が必要な場合は、家族と相談し対応している。	ほとんどの利用者は往診医がかかりつけ医で、専門医とも連携している。往診医は24時間対応で連携体制もできている。通院の際は家族が付き添っているが、必要に応じ職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況との違いに気づく観察力を身につけ、月2回常勤看護師による看護指導を実施し、情報を共有することでスムーズな連携が図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護連絡表を用いてホームでの様子や経過を情報提供している。入院中の状況も家族や面会を通して把握。退院にあたり、今後の生活について情報をいただき、ケアの参考にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期の方針について説明している。必要時家族、主治医、職員を交えてサービス担当者会議を実施。ホームでできることを説明。本人、家族の意向を伺い、主治医と連携し、終末期の介護や看取りもおこなっている。	入居時に看取りの方針を説明し同意を得ている。終末期には家族、主治医、職員で話し合い同意書を交わし24時間対応の訪問看護師とも連携している。ほとんどの家族と利用者がここで終末期を迎えることを望んでおり、職員も看取りの経験を積んでいる。事業所には常勤看護師がおり職員に安心感がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルを参考にした勉強会を実施。また看護師の指導の下、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施している。毎月11日を防災の日とし、備品点検をしている。また地理的な制約もあるが隣接の鶴が丘地区住民と協力体制を築いている。	年2回、夜間と昼間を想定し避難訓練をしている。町内はもとより隣接する町内会の方にも防災訓練の参加を依頼し、関わりを強める努力をしている。消火設備の点検もされ備蓄は4日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。プライバシー保護については年間研修計画の中に取り入れ勉強の機会を設けている。呼び方については本人の意向に添って苗字や名前と呼んでいる。	呼び名は入居時に本人や家族から聞いている。トイレ介助はさりげなく行っている。話しかけ方にもそれぞれを尊重する配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現することが難しい方については表情や様子から思いをくみ取り自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容サービスを活用している。日々衛生保持に努めるとともに家族の協力のもと季節に応じた身だしなみやおしゃれを楽しむことができるような支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に準備し、一人ひとりの好みや旬の物を取り入れた食事を楽しんでいる。またホットプレートを囲み、焼きそばやお好み焼きなどを作り、後片付けも一緒におこなっている。	法人の管理栄養士が献立をたて、ユニットごとにいる調理師が献立をアレンジし3食手作りにしている。食材は複数の業者から購入している。誕生会などの行事食や、好きなものを選ぶ日も設けている。職員は利用者の見守りや介助をしている。介護食にも対応し、食後のバイタルチェックを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、栄養バランスの摂れた食事を提供している。また、水分量を把握し好みに応じた飲み物を提供。さらに、主治医と連携を図り、必要に応じた助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の清潔を保っている。また随時往診歯科による診療で助言をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握。タイミングをみてトイレ誘導をおこない生活のリズムを整えている。その方の動作や表情、しぐさから状況を把握し支援をおこなっている。	排泄パターンを把握している。自立を目指しているが、介護度の重い方が多くリハビリパンプの方が多。便秘予防のために、朝に水分や牛乳をとったりしているが薬を使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の運動や水分の摂取状況等を把握し快適な排便に繋がるよう努めている。管理栄養士の指導の下、食物繊維を多く含むメニューを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望にて入浴が出来るよう対応している。入浴を拒む方は声がけを工夫しながらタイミングを見て声がけしている。	週2～3回入浴し、時間は利用者の希望に添っている。湯は2人ごとに交換している。入浴を拒む方には声掛けや時間などを工夫している。ゆず湯、ミカン湯、しょうぶ湯、バラ湯など季節ごとに楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は特に定めていない。夜間帯は間接照明にて安眠できるように配慮している。また不眠傾向の方に対しては日中の過ごし方を見直し、安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について理解できるよう処方箋をファイリングしている。また日付け名前を読み合わせし、再確認の上内服していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々個別アクティビティをおこない一人ひとりと接する時間を多く取れるように努めている。毎月ホーム内外行事や外出支援を通して気分転換につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って出かけられるよう支援に努めている。また年間計画に行楽計画も組み入れている。毎日の生活の中でも散歩や買い物等で外出支援をおこなっている。	寒い季節を除いて歩ける方、車いすの方が散歩をしている。洗濯物を一緒に干すなど外に出る機会を作っている。法人のデイサービスの車で季節ごとドライブに出かけ、アイスクリームを食べるなど楽しんでいる。買い物をしたい利用者には職員と一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方については家族の同意をいただいた上でホームで預り毎月収支報告をしている。外出時の買い物などは職員見守りのもと自分で支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族へお便りを書いたり、電話にて親族や友人とやり取りが出来るよう支援している。家族から電話をいただく事もよくある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は皆がゆったりとくつろげるように工夫している。また整理整頓を心がけ季節を感じるができるような作品を手作りし掲示している。和やかに生活が楽しめるよう工夫している。	ユニットごとに間取りが異なる。2階のリビングは東西に窓があり四季が感じられる。1、2階共に利用者がくつろぐスペースが広い。大きな掛け時計、手作りの日めくりカレンダー、利用者と一緒に作った工作物が飾ってある。表札やトイレなど大きく表示されており、わかりやすい。温・湿管理もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて入居者同士がくつろいだりコミュニケーションの場として過ごせるようソファ・テーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの鏡台や家族の写真を飾っている。また本人が守ってきた仏壇にも手を合わせることが出来るような環境作りに努めている。	机、エアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。家具や仏壇、家族の写真、テレビなど馴染みの物を持ち込みその人らしく、安心して過ごせるよう支援している。居室は毎朝職員が掃除するが、一緒にする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室などは大きな文字で分かりやすく表記している。また、車椅子の方も手すりに沿って動くことができるように配慮している。		